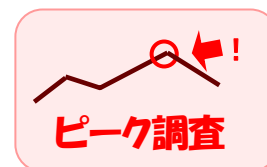




<担当>

観光庁観光経済担当参事官付
神山、清瀬、北島、清水、山川
代表 03-5253-8111
(内線 27-219, 27-211, 27-215, 27-220)
直通 03-5253-8325

平成23年7月27日
観 光 庁



【ピーク調査】

ゴールデンウィークにおける観光旅行の動向（確報）

～全国の国内宿泊旅行人数は昨年と比べ、微減傾向にとどまるとともに、国内日帰り旅行の消費額単価は増加～

平成23年6月8日に発表しましたゴールデンウィーク期間(4月21日～5月11日: 21日間)における観光旅行の実施状況、宿泊施設・観光地の状況等について、確定値をとりまとめましたので、お知らせいたします。

記

1. 今年の概要

- 国内宿泊旅行における旅行人数は約2,000万人(昨年比3.2%減)、旅行消費額は約8,981億円(同3.1%減)、消費額単価は40,767円(同4.9%減)となっている。[表1]
- 国内日帰り旅行における旅行人数は約2,893万人(昨年比19.3%減)、旅行消費額は約4,396億円(同1.3%減)、消費額単価は10,236円(同16.6%増)となっている。[表2]
- 4/29～5/5のうち、5/2が平日だったことから、宿泊施設の稼働率及び観光地点の入込客数のピークは5/2の前後に存在している。[図1, 2]
- 宿泊施設において予約キャンセル件数が増えたと認識している宿泊施設は、東北地方で70%、東北地方以外で40%であったが、そのうち昨年から引き続き回答している宿泊施設の客室平均稼働率はほぼ昨年と同様である。[図3, 4]
- 国内宿泊旅行を実施した判断理由について、震災を契機として国内宿泊旅行を実施した人は約471万人(23.5%)、震災とは関係なく国内宿泊旅行を実施した人は約1,439万人(72%)、震災により内容を変更して国内宿泊旅行を実施した人は約90万人(4.5%)となっている。[図5]

<注意> 宿泊施設及び観光地点については、青森県の一部、岩手県、宮城県、福島県、茨城県を調査対象外にしている。

2. 昨年と今年の比較

○国内宿泊旅行・国内日帰り旅行

表1: 国内「宿泊旅行」の動向

	2011年(4/26~5/11)	2010年(4/26~5/11)	増減比率	増減値
旅行人数(万人)	2,000	2,066	-3.2%	-66
旅行消費額(億円)	8,981	9,272	-3.1%	-291
消費額単価(円) (主な旅行1回あたり)	40,767	42,874	-4.9%	-2,107
平均旅行回数(回) (実施者の平均)	1.10	1.05	-	0.05
平均泊数(泊)※ (1回の旅行あたり)	2.28	2.24	-	0.04
実施率(%)	19.5	20.2	-	-0.7ポイント

※ 平均泊数について、複数回旅行に行った回答者については旅行1回あたりの泊数の平均値を算出。

表2: 国内「日帰り旅行」の動向

	2011年(4/26~5/11)	2010年(4/26~5/11)	増減比率	増減値
旅行人数(万人)	2,893	3,584	-19.3%	-691
旅行消費額(億円)	4,396	4,454	-1.3%	-58
消費額単価(円) (主な旅行1回あたり)	10,236	8,776	16.6%	1,460
平均旅行回数(回) (実施者の平均)	1.48	1.42	-	0.06
実施率(%)	28.2	35.0	-	-6.8ポイント

注意: 表1、2について4/26~5/11の期間を比較している。

○宿泊施設・観光地点

表3: 「宿泊施設・観光地点」の動向

宿泊施設	2011年(4/21~5/11)	2010年(4/22~5/12)	増減比率	増減値
客室平均稼働率(%)	58.5	58.6	-	-0.1ポイント
料金水準(通常・平日を100)	131	130	-	1ポイント
観光地点	2011年(4/21~5/11)	2010年(4/22~5/12)	増減比率	増減値
入込客数(万人)	1,947	2,575	※	※
入込客数(万人) N=287 ※両年回答した観光地点を抽出	1,622	1,718	-6.1%	-96

※2010年が424地点、2011年が357地点を対象とした調査結果のため、比較数値は参考扱い。

<注意> 宿泊施設及び観光地点については、青森県の一部、岩手県、宮城県、福島県、茨城県を調査対象外にしている。

図1: 宿泊施設の稼働率

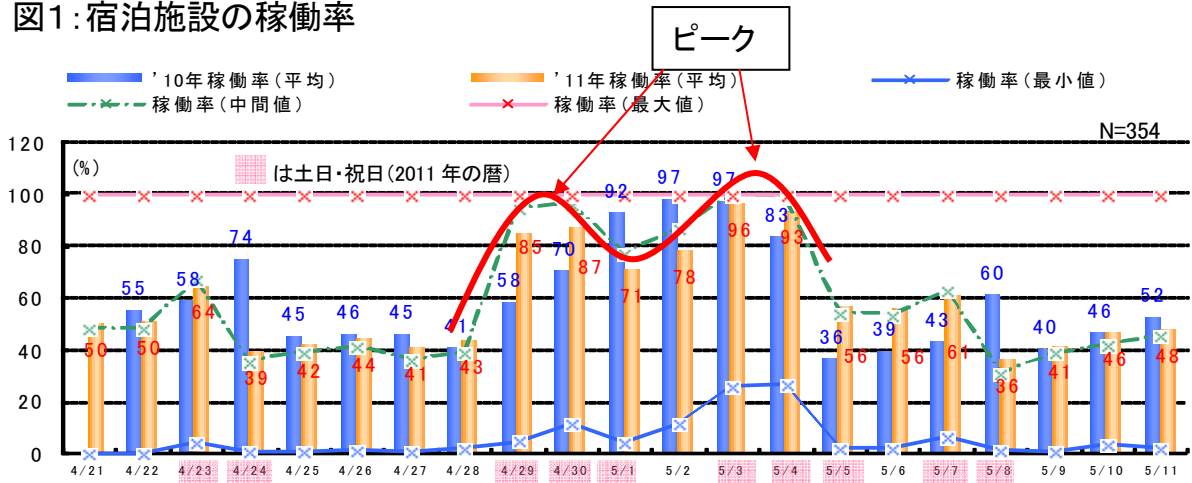
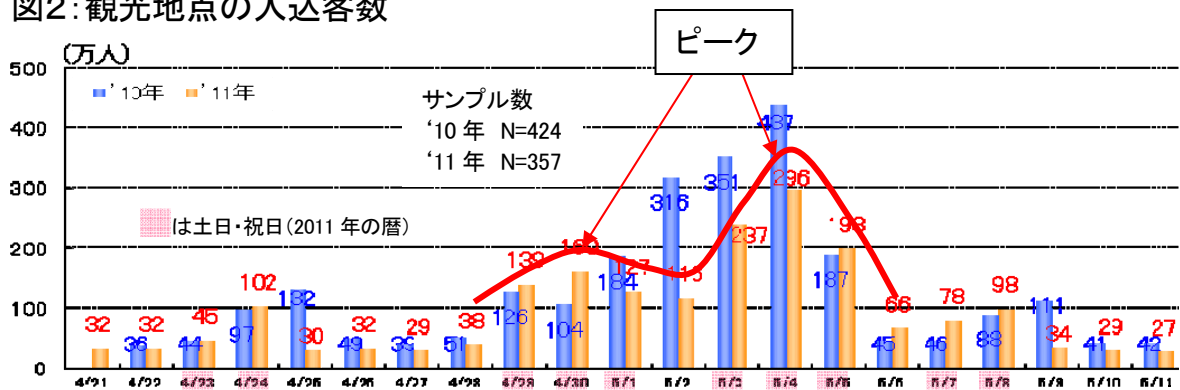


図2: 観光地点の入込客数



3. 旅行動向の状況

図3: 宿泊施設の予約キャンセル状況

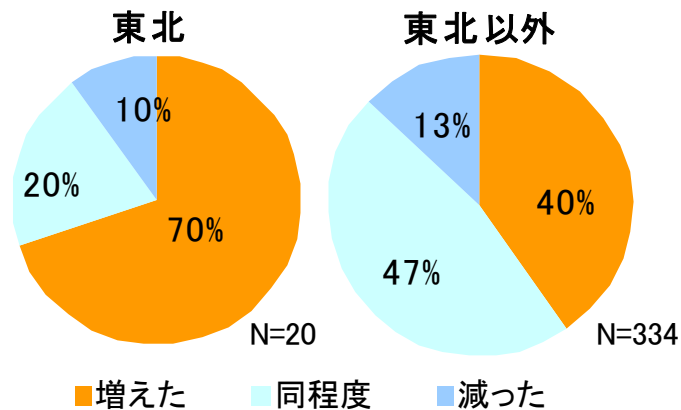


図4: 予約キャンセル件数が増えたと認識している宿泊施設の客室平均稼働率

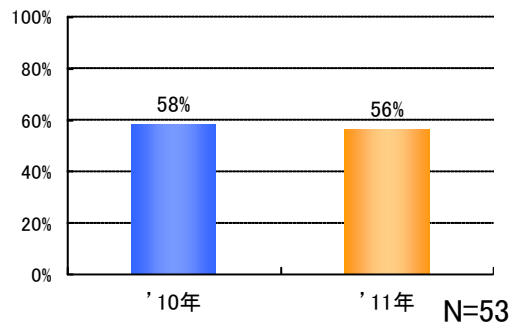
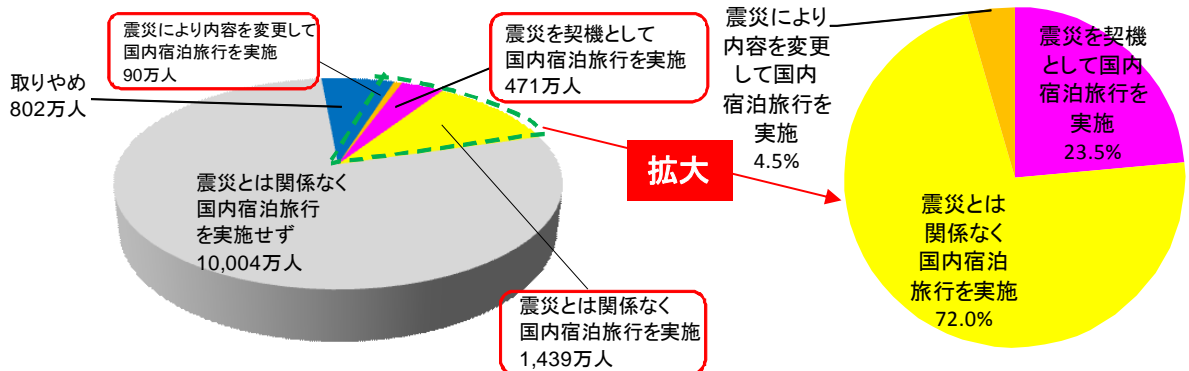


図5: 国内宿泊旅行動向の判断



<参考>

《ゴールデンウィーク調査の実施状況(調査対象期間:4月21日~5月11日)》

需要側調査

調査方法:インターネット調査、実施時期:5月14日~15日、調査対象者数:3,142人

※今回の調査では、東日本大震災の影響により、被災地を含む地域のサンプルに偏りがあることに留意。

供給側調査

①宿泊施設に対する調査

調査方法:FAXによるアンケート調査、実施時期:4月21日~5月16日、調査対象施設:354施設

②観光地点に対する調査

調査方法:FAXによるアンケート調査、実施時期:4月21日~5月16日、調査対象施設:357地点

※東日本大震災被災地域の取り扱い

宿泊施設及び観光地点については、青森県の一部、岩手県、宮城県、福島県、茨城県を調査対象外にしている。

《ピーク調査の目的》

消費者にとってより良い旅行環境を整備すると共に、受入側である観光事業者が安定的に経営出来る産業構造を造り上げることは、観光立国を目指す上で不可欠な課題です。

本調査は、年間3回の観光旅行のピーク時期に、「需要側」(一般国民:インターネット調査)と「供給側」(宿泊施設・観光地点:アンケート調査)に対して調査を実施し、観光旅行の実施状況や価格の動き、雇用の状況等について把握することで、より効果的な観光施策の展開を図ることを目的としております。また、今回の調査では東日本大震災のゴールデンウィークの国内観光旅行への影響を把握することも目的としております。



《本調査における用語の定義について》

○本調査における「旅行」とは

出張・業務などのビジネス目的を除いた、観光・レクリエーション及び帰省等を言います。

○本調査における「消費額」とは

「旅行中」の消費額のみであり、旅行前後の支出は含んでいません。

